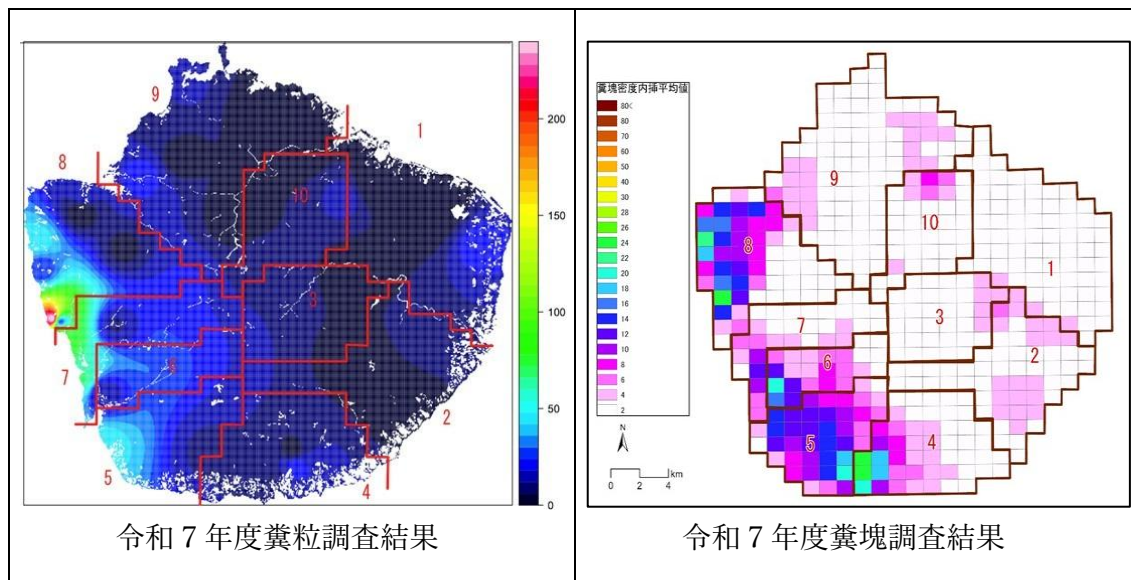


令和 7 年度ヤクシカの生息状況について (糞粒法と糞塊法の結果比較)

(鹿児島県自然保護課)
(環境省九州地方環境事務所)



令和 7 年度のヤクシカの生息状況に関して、糞粒法および糞塊法の結果比較は以下のとおり。

※以前までは各調査結果を報告していたのみであったが、それぞれの調査結果を比較して、その差異等について取りまとめた。

○屋久島全体のヤクシカの生息状況については、概ね同じ傾向（島全体としてはやや減少傾向）を示している。

○南西部（河川区分 4～6）の生息状況は糞塊法に比べ、糞粒法では過小評価となっている可能性がある。糞粒法で過小評価となった要因としては、調査地点数が少なかったことが考えられた。

※来年度から、調査手法の統一の可能性や両手法の調査結果を活用した生息状況の推定手法について協議の場の調整など検討したい。